第三種郵便物認可　日刊　昭和26年7月19日
(1)昭和25年10月9日（除月曜）運輸省特別扱承認第684号
磐　城　日　日
昭和29年12月25日（土曜日）　第1297号

磐城日日
發行所
磐城日日新聞社
編集兼發行人　比佐不二夫
福島縣磐城市洛廻51
電話387番
常磐支社
常磐市湯本三函254

冬の御支度は
はちや
チケット歡迎
電919

明春三月に迫來る
磐城市議戰冬の陣總まくり
④

多士才々の顔ぶれで
現役六氏にいどむ江尻氏
（小名浜三區の卷）

本町通北側となると誠に多士才々、人材は雲の如しと云うところ。現役陣の顔ぶれも前小名浜町議会副議長の馬上喜一氏、商業界唯一の代表、磐城商工会議所生みの親とも云うべき飯塚勝氏、その隣が立花氏らと共にリコールの槍玉にあげられながらなお現在カクシヤクとして市会の實力第一人者、立花市長には大久保彦左門的な存在でもある小野務平氏、謹嚴そのもの、無言実行をもって鳴る磐城座の舘主小野直千賀氏、教職をヘイリの如く捨て去って質屋から材木商、また再び質屋業と、経済的な機をみる事まことに敏、町議三期をつとめあげる木田谷平「これも教員上りでその昔し「赤鬼」とならし一聲でスクミ上った人間は數知れぬ中に慕われる人徳をかくす現小名浜生協の專務、市会切っての青年將校小林仁一郎氏、市会切っての法律通、自他共に許す市會法学博士實力派の巨頭と目される立志伝中の人金澤勉氏と七氏を數えるが、小野務平、小「野直千賀、飯塚勝、木田谷平氏の四氏は出馬確實、小林氏は革新派の第一人者として組織を生かしてまづ出る。馬上氏は起意を明らかにしていないが狀勢によっては覺悟のホゾも固めていると見られ、御大金澤氏は政界に見切りをつけたか全然起意を捨てて一沫の淋しさを殘している

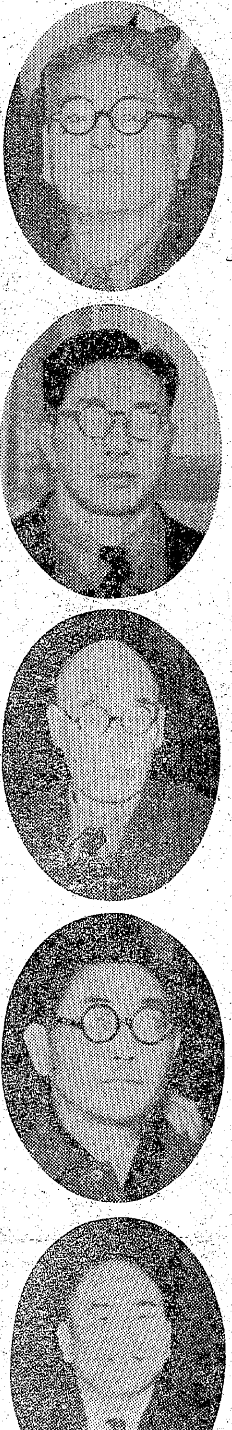
『出したい人を』と
松田美枝氏のかつぎ出しも

新人群はと見れば稲屋の旦那で立花派の最高参謀長江尻三睦郎氏が大きく浮んで來る。

氏は佐藤貞吾氏らと共に當確を持して選擧は水ものゝ苦杯をなめる事四年、今回出でずんばその政治生命は危タイに瀕す、こゝで一番奮起東來立花市長市政の推進力たらんと氣構えは既に白熱化している

氏には「出たい人より出したい人を」と婦人層の與望を一身に擔う小名浜第一婦人会長松田美枝氏の存在が大き出て來る

松田氏は政治のセの字も口にする事なく婦人の地位向上に盡力する事七年、全然政治色のない事は珍らしいと云われる程の人格者として周圍の擁立運動は期日の切迫共に强よくなっているが本人にはその意志が全くなく、出馬はしないだろうと云われるが周圍の運動が强よければ公明モデル選擧をモットーに出る可能性も多分にある



寫眞は上から　馬上
飯塚、小野、木田
小林氏

スポーツ服裝
ノエ運動具店
電二一五

主張

更に市政に問う（下）
施政の根本方針は何處にあるか!!
比佐凡風

私は現在の各市町村予算編成期に當り、計画的な重点主義をとれと強く主張したい

人氣とりの陳情政治や、アレもコレもの總花政治、予算ブンドリ主義が如何程税金を浪費し、建設を防害するかは事實をあげて指摘するまでもない事で例を私達の家庭生活にとってもそれは明りように誰しもがわかる處でしよう

各市町村には各々その特性を持って夫々やらなければならぬ仕事は誰が見てもわかっている事である

その山積された諸問題をどれから先きにやって行くかその撰択にこそ政治家個人の特性があると思う

これは根本理論にもどらねばならないが、選擧の場へに各候補者は「私はこれからとりあげ、こうしてやる」と具体的な政見を述べて選擧民がこれに審判を與えるという理想に生きられゝば良いが現段階における公選首長、議員にはそれが欠けたまゝに選出されているから今更私風情がこんな事を長々と主ちようしなければならないのであるか、やらなければならぬ必要事業を全部羅列し、人件費、需要費は極度にこれをきりつめ、事業予算を最大限に生かしてしかるのちにこれを任期内にとれだけ出来るか或いはやらなければならぬかを見るならば自ずとその企画性は生じて來るものと素人眼ではあるが確信する

それは理想から發し、理想から生れ、然して理想を消失させた現實の姿とならなければならない

せめて、との市長なり、町長なりが任期を満了する時期には郷土がこんな姿に發展しているという見通しくらいは持たなければそこには建設も發展の希望もヘチマもないと思う

多くの市民の意見を求め檢討に檢討を加え、然るのちに首長の裁断が生きる

百人の意見は百出する。民主政治を衆愚政治とするか否かは選良の首長の高適な智性と識見による裁断による。それは英断にも通ずる

英断の大ナタは充分にふるわれる事を切に要望したい

そして輕薄なる人氣を默殺せよと主ちようしたい。

自勞の年末手當に厚生委

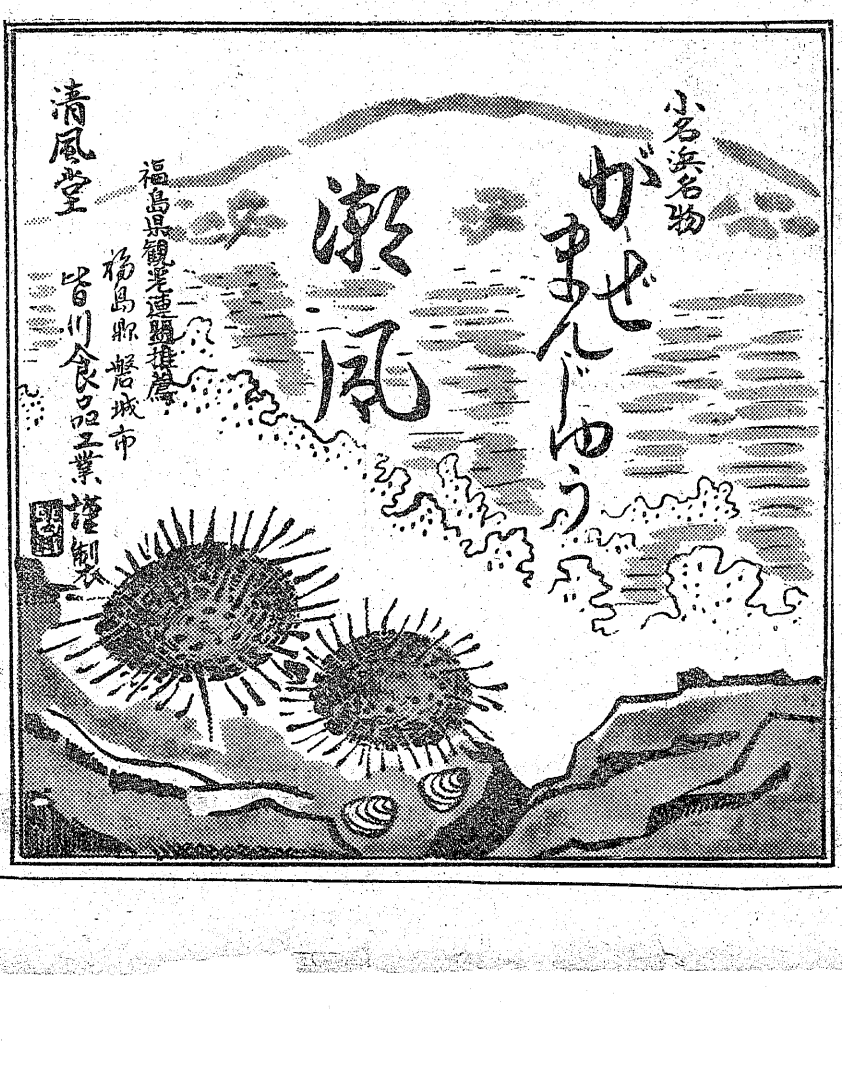
磐城市議会厚生委員会（委員長久保木重雄氏）は二五日午前十時から開かれ、失対事業勞務者に対する年末手當の支給について協議する

自勞の越年支當は一人五千圓、有給五日の要求に対し県は加給金六日分（一三八〇圓）、自勞厚生協会を通して一人六百圓貸付金四百圓を回答したが郡內各市町村は去る二十二日この対策を平市役所で協議しており、この結論を各市町村に諮って決定しようとするもの

賣告マッチ、割箸、カレンダー、ヴチワ
扇子最新式、室内外カーテン、衛生白衣
椅子ボックスカバー、手拭タオルハンカチーフ
四季造花・名入サービス用品一式
三上廣告マッチ社
磐城市小名浜港水素正門通り
電話（磐城）八六一番

ワイシャツ　洋服
都服裝店
磐城市小名浜電三三

マルトヒの運動靴


小名浜名物
がぜまんじゅう
潮風
福島県観光連盟推薦
福島県磐城市
皆川食品工業謹製
清風堂

自家製造の家具
御婚禮用家具一式
和洋タンス各種、茶ダンス、戸棚、事務用机
椅子、漆器、佛具、ウインドーケース
譽屋家具店
磐城市中島通り　電話三六五番

チケット歡迎
平マーケット
小名濱第二小学校前電二九七
クリマスの御進物
御友達への贈物はなんでも
手頃の良い品が澤山揃って
居ります学用品小間物袋物
皆様の店
経費をかけずに良い品安く
年末×マスの御用意
御子様の既製服新型取揃
×マス御子様靴と御帽子
化粧セット小間物豊富取揃
皮手袋300圓―1350圓
マフラスカーフ190圓
ハンドバック最新流行品揃
靴下はナイロン製品が御德
毛糸新入荷
群羊毛糸　1封度　1200圓
カネボー　1封度　1600圓
化粧品柳屋メヌマ ジユシユ・ウテナ　80圓
フトンの手入丈夫な夜具地
「ちどり「フトン綿

あわや!!スト突入の寸前

常磐炭礦の大量首切り妥協

去る十二日突如出された「經營白書」により二千三百名の大量首切りで不況の炭礦界に異常なセンセーションをまき起こした常磐炭礦はその後数次の交渉からスト突入も必死と見られたが會社側の讓歩により一應その危機を突破した

かねて会社側から出された「經營白書」に基き労資双方による運協は二十一日開かれたが席上会社側は突然「今日の石炭界不振に対応するため二千三百人に勇退「してほしいと組合側に正式申入れたが組合側はこれに猛烈な反対を加え「もし会社が本當に一山一家の誠意があるならばこの二千三百名を一名も犠牲にしたくない」と組合案を中心に建設的な協議を主張、ついに会社側はその提案を取消し組合の対策を協議する事になつた。

これより先き組合側は会社の强硬を予期して既にスト權を確立しその運協に臨んだだけに破局寸前の妥協であつた

注目を集める人

現齊藤教育長の動向

更に注目される動きは現教育長齊藤昇一氏で小名浜町役場時代から勤續實に三二年、先きに退職した長瀬国三郎氏に次いでいまでは名實ともに役場のヌシ的小名浜の生字引きで教育委員会發足の二七年十月学務課長から初代教育長に轉出、次來学校建設に見せた政治的手腕に小名一中の特別教室今回イの小名二小の特認起債などは卓越したリキ量としてたかく評價され、來春三月教育長を最後に三十余年の吏員生活を勇退し、市会に出るのではないかと見られているが、本人は公務員という立場から一切意志の言明には慎重を期しており眞疑はあくまでも秘されている

また一部には前小名浜町議小名濱文化協会長坪内清内區長連合会長太田武彦氏ら四擁立も文化人代表として行われているが太田氏はまづ出たいと觀測される

村上君（小名高）榮の優勝

團体では平工に優勝盾

昨報＝県浜通り高校雄辯連盟主催浜通り高校辯論大会は二十三日小名高講堂に十二校代表二一名の辯士が代るゞ登壇、熱辯を奮つた結果次の六君が入賞、二十六日福島高校で開かれる県下五地區対抗辯論大會に出場する事になつた。

入賞は次の通り

▽團体の部優勝、平工業高校、▽二位小名浜高校、▽三位双葉高校

優勝＝小名高村上ミチ子「現代に生きる」

準優勝＝平工高坂本光庸「現代社会に斯く思う「

三位＝双葉高校原田忠国「学生スポーツの危機」

四位＝磐城高校尾代俊一郎「ヒロポンを憂う」

五〇＝磐農高吉田久一「農村に生きる」、平工高校秦明

岡田牛乳が

無料券寄贈

平市岡田牛乳店では二十三日磐城市福祉事務所を訪れ歳末たすけ合い運動に協力し一ケ月牛乳無料講入券五枚の寄贈を申出、同福祉事務所では早速病人の貧窮者にこれを贈ることになつた

巷に散る一億の花

磐炭のボーナス二五日に

休山、閉坑と石炭業界の不況はドン底におち、迫り來る師走の常磐地區に干天の慈雨とまで一ルの希望をつないで渇望された常磐炭礦のボーナスは愈々二十五日の支給される

二千三百名と云う大量人員整理白書斗争と併行して數項に亘り行われた同炭礦越年手當要求は平均額八千四百五十圓で昨年に比して一割の減少であるが總額で約一億二千萬の札ビラが師走の街に散る事になり、各商店はドッと湧き上り、ボーナスめがけて宣伝戦、商賣戦を展開している

泉小は國興が落札

小名二小も新年早々着工へ

磐城市泉小学校改築の第二期工事入札は二三日午前十時から市役所會議室で行つた結果國興建設が五八萬圓で落札、新年早々着工し、三月末までに完成する事になつた。

また本年度予算として計画されながら補助がきまらず延び／＼になつていた小名浜第二小学校の二階建八教室増築工事も先に起債一六〇万が認可され、更に補助八〇萬も近く認可の見通がついたので予算七五五万で新年早々入札を行い着工される事になつた完成は補助事業の關係から年度内を必要とされ、泉小、小名二小の生徒は新教室という事になる

天気豫報

（本日）北まだは西の風晴れたり曇つたり、のち雲が多くなりましよう（海上）風波が殘りましよう

集菜市況

卵九―一〇玉ねぎ二六―五〇人参四〇―七〇ごぼう八六―一二〇白さい一五―二三ばれいしょ四五―七〇さつまいも八〇―一〇〇大こん一〇―一八丸大こん一〇―一五ほーれん草三五―九〇モヤシ一三〇―一四〇

學藝

高校辯論大會を顧て

審査員としての私の辯解

比佐不二夫

二三日小名高で行われた浜通り高校辯論大会に堂々たる斯界の權威先輩諸氏に吾して若冠の私が審査員の重責を受けましたが、親しく辯士各位と懇談致す間もありませんでしたのでここに私には私たりの辯論に対する拙見と感想を記しその責任の一端にかえたいと思います

まず全般的に感じた事は「話す言葉」と云うものがあまりにも等閑にふされているのではないかと思うのです。話すと云う事は雄辯の究極の手段であるにもかゝわらず、聲、音、の基本的なものから言葉としての發音、發聲、更にはアクセント、言葉のニュアンスと云う事に殆どが注意を拂われてない様に感じました。その殆どの方々が所謂る演説口調とでも云うか非常に誇張したアクセント（甚しいのは日本語から遊離までしている）によつて何も彼もドナルと云う結果は自分の聲と云う特性を知らない事に故因しているとも思われました。演説の内容によつては絶叫して訴えるもの、ジワリと說きつけるものがあると思う。これも自分の聲の特性とニュアンをス眞に把握すれば自ずとこれを生かした辯論が生れて來ると思うのです。

更に演説の原稿は文字によって書かれるがこれはあくまでも文章ではなく、言葉であるという文章と言葉の相異という事實もう一度意識してほしい。

言葉と文章は全然その性質を異にする事はやゝもずれば忘れ勝ちですが、讀まる事を目的とする文章と、聞かせる事を目的とする言葉の相異は非常に重大で、書けば意味のとれる漢語などが言葉ではたま／＼その意が通じない事があります。ましてアクセントが感覺稚拙な場合「富める人」が「止める人」に聞える様な事が出て來ます、だがいたずらな漢語の羅列はその意味を判斷するのに容易でありません。また用文法も非常に觀念的で聞いてた私には意味のとれない言葉が數多くあつた事も事實です

＝續く＝

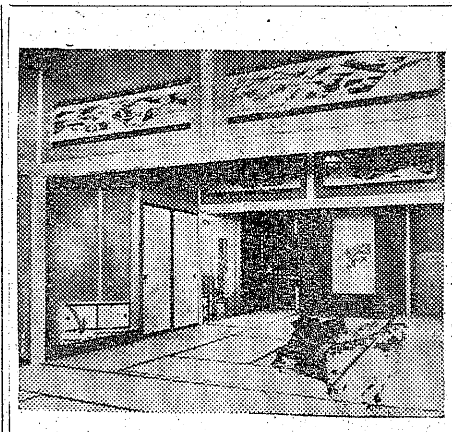
新年装いはモードのトップを行く當店へ
洋服
洋品
丸正
小名濱 電五七四

小島の運動靴

募集
女子店員 若干名
【委細面談】
磐城市都服装店

内科
一般外科
性病科
腟門科
放科線科
（入院隨意）
草野醫院
磐城市中島 電九九

時計とメガネ
正確な技術
小名浜町中島通
カンノ時計店



毎度御引立御禮申上げます
樂しい忘年会 新年会
其の他御會合の御利用には
格安に御相談に應じます
割烹 料理 杵家
磐城市中通り TEL 306

今日の映畫案内!!

金星座 22日~28日
貫錄充分な映画
大松竹の總力結集の超特作!
忠臣藏
花の巻・雪の巻
堂々四時間一擧上映
總天然色映画
アフリカ猛獸王國

磐城座 22日~26日まで
伊達騒動
母御殿 三益愛子
あんみつひめ〔後篇〕
ワーナー映画
コーネルワイド
ステイブマクラン
語らざる男

キンビ館 22日~28日
全女性の紅涙を絞る感動篇
繼母 ままはは
折原・田代・松島・月丘
三宅・船山・宇佐美
蛇姫様 完結篇
生死を賭けた壯絶の巨篇
黄金街の覇者